

令和6年度 第1回 千代田区立九段中等教育学校入学等あり方検討会 会議録

日時 令和6年5月27日 午後2時00分～午後3時00分

場所 教育委員会室

【出席者】〔委員長〕大森委員（教育担当部長）

〔副委員長〕野中委員（東京学芸大学特別教授）

〔委員〕池戸委員（東京都立白鷗高校附属中学校校長）

盛谷委員（区立中学校長会会長、神田一橋中学校校長）

難波委員（区立小学校長会会長、九段小学校校長）

野村校長（九段中等教育学校校長）

金子委員（九段中等教育学校副校長）

上原委員（指導課長）

清水委員（学務課長）

〔事務局〕高田学務係長、石川学務係主事、コンサルタント1名

1 開会（教育長挨拶、委員委嘱）

堀米教育長 （挨拶）

大森委員長 本検討会の議事要旨等は公開としていきたいが良いか。  
（了承）

2 委員紹介、副委員長の選任

（野中委員を副委員長として選任）

3 検討会設置趣旨（検討事項及びスケジュール等）の確認

（特に質疑・意見はなし）

4 現況の確認

事務局 （資料5及び資料6を説明）

野村委員 九段自立プランは、中高一貫校になってからずっと行ってきた。学習指導要領で総合的な学習の時間から、総合的な探求へ変化したこともあり、探求的な学習にしようしている。今年度から、九段探求プランという名称に代わっている。千代田区の教育資産を活かしながら探究的な要素を高めるものであり、グローバル、STEM、アントレプレナーシップの3つを柱としている。来年入学用(2025年)からの学校案内では九段探求プランとなる。

野中副委員長 DXについても、来年度の募集要綱から載るのか。

野村委員 来年度の募集から、生成AIのパイロット校に指定されたこと、教育DXハイスクールの認定も受けたことが載る。また、令和7年度から大学入試共

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 野村委員                  | 通テストで情報（e-assessment）が入ってくるが、その問題作成に向けたパイロット校の指定も受けた。生徒に解かせて、どういう問題があるのかを確認する。そういう意味では、生徒は特別なことに携わることができる。アエラに公立中高一貫校の受検者数減少の理由の記事が出ていた。1点目、学校を知るチャンスが少ない。2点目、教育の硬直性。大学進学の実績ばかりにこだわっている。3点目、施設の老朽化と柔軟性の不足。既存の施設を時代に即して改修する（例、ラーニングコモンズ）ことを私立の一貫校はできている。4点目、高校無償化による私立志向の増加。                                                                                  |
| 大森委員長<br>野村委員<br>池戸委員 | 施設の柔軟性というは、どういうことか。<br>ラーニングコモンズのような新しい施設に作り変えることのようなのである。受検者数減少の分析が難しい。都立の場合、適性検査なので、偏差値が高い、学力が高いから受かる訳ではない。塾としては、学力検査を課す私立の方が合格の可否を読みやすい。なおかつ、無償化で費用もそれほど変わらないのであれば、私立の方がより計算がたつと言っている塾もあるようだ。全体的に受検倍率が落ちてきているのは確かだが、併設型では全ての学校で1クラス増加している。例えば、両国や大泉等。定員が増えたので倍率は低下しているが、受検人数が増えているところもある。学力検査ではないので、なかなか分析は難しいが、都立の中高一貫校の定員が増えていることも、倍率に影響している1つの要因ではないか。 |
| 大森委員長<br>池戸委員         | 白鷗の伝統分野の特別枠導入の経緯などについてご説明いただきたい。<br>昔からの東京都教育委員会の施策に入っている。白鷗は、上野、浅草という場所にあるので、日本の伝統文化を大事にするというスタンスを持っている。ただし、本校で伝統芸能をさらに育てるための特別枠ではない。そういう伝統芸能の能力に秀でた小学生にとって、中学校以降も伝統芸能を続けながら、学校の勉強もしっかりしていくという受け皿を作っているというのが現状である。                                                                                                                                          |
| 大森委員長<br>池戸委員         | 特別枠があることで、一般の応募人数への影響は何か考えられるか。<br>伝統芸能の特別枠は最大で6名で、今年の合格者は4名。それよりも、海外帰国子女枠の方が30名が多い。定員200名で、伝統芸能と海外帰国子女合わせて36名で、残りの164名が一般枠となる。特別枠の影響で一般枠に何らかの変化を起こしているということはない。                                                                                                                                                                                             |
| 野村委員                  | 特別枠については、検討委員会があり、そのまとめの冊子で内容が決まったものである。学校側がこうしたいからということで決まっている訳ではない。検討委員会の決定を受けて、教育委員会が決定している。                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 池戸委員                  | 小石川の場合、自然科学の特別枠があり、スーパーサイエンスハイスクールでもあるので、学校で育てられる部分もある。同じ特別枠でも、入学した特別枠の子どもたちをさらに伸ばすところと、特別な技能を持った子どもたちを受け入れるところとでは少し違う。                                                                                                                                                                                                                                      |

野村委員 特別枠の場合、倍率というのは適切な表現ではない。例えば、5人の募集枠で5人の応募があっても、5人とも落ちる場合はある。5人枠があっても、合格するのは1名とかである。

大森委員長 特別枠としての選考基準として、ここまで満たしていないとクリアできないということか。

野村委員 そうである。

大森委員長 特別枠の場合、一般枠のように内申書をみるのか。

池戸委員 昨年度は1000点満点中報告書の割合は200点であった。あとは面接と技能。勉強が大変という子もいるが、それを理解した上で入学してもらっている。分野によっては、学校の授業がある平日ということをあまり意識しない分野もある。

大森委員長 そういう方々でも卒業できるのか。

池戸委員 基本的にはできる。ただし、昼間は稽古事に集中して夜間の定時制でやりたいというように、平日の昼間に勉強することに見切りをつける生徒もいる。

盛谷委員 区立の中高一貫校は、個性化をする必要がある。入試でも個性化は必要である。他の学校と比べても、魅力を感じるようにしないといけない。選んでもらえるような特徴を持った特別枠を設けることが必要だと思う。

清水委員 特別枠を設けることで、一般枠の生徒への良い影響があると良いと考えるが、白鷗の場合はいかがか。

池戸委員 上野、浅草に立地する特性を活かし、日本の伝統文化に重きを置くことは、今後、白鷗が生き残る上では大切な要素だと思う。そうした点を前面に出しており、伝統芸能に秀でた子どもたちも入学するが、それにより一般枠で受検をする子どもたちに何らかの刺激を与えているかということ、直接つながることはない。特別枠があることで一般枠への倍率に影響するということは、白鷗ではない。特別枠で入る子の受け皿になっている。教育課程上、伝統文化の授業を設けている。高校生で、日本文化概論という座学をやっている。また、囲碁、将棋、華道、茶道等を必須選択制でやっている。部活動でも、百人一首、和太鼓、長唄三味線は全国レベル。そういう意味では、日本の伝統文化に触れたり、学んだりする機会はある。その他、高校一年生では、地域に出て、浅草流鏑馬、とうろう流し、かっぱ橋祭り等、色々なところにボランティアで行っている。今度は、鳥越まつりで神輿を担ぐ。そうしたことをたくさん経験して、日本を学び、世界を学び、探究につなげていく。そこは、他の学校よりもアドバンテージにしたいところと考えている。とはいうものの、特別枠がこうした活動に絡むことはない。特別枠の子どもたちが活躍するのは、芸能分野の生徒に関しては文化祭の時に特別枠の子どもたちだけの発表がある。舞台を設置して、日本舞踊をしたりする。また、浅草神社での奉納時にやらせてもらっている。そうい

- う発表の場は作っている。
- 難波委員 今年度、本校から数名、九段中等に入学している。その中には、もし九段中等がダメだったら、区内の他の公立中学校に行くという子もいる。どうして九段中等に入ったのかを子どもたちに聞いても、なかなか正直に答えてもらえない。親がどうして九段中等を選んだのか。そうしたのが見えてくると、今後の入学のあり方にもつながると思う。実は、本校では、評定が1や2の子も受けている。中には、評定が3よりも2が多い子が受ける場合もある。子どもの意向、親の意向が、何を基準に九段中等を選んだのかを知りたい。子どもたちにとって、九段中等は、距離的・心理的な近さが大きいのではないかと推測している。
- 大森委員長 他の自治体の動向や事例なども、議論する上での参考になると思うので事務局で調査・情報収集をお願いしたい。その他にも、委員の皆様から調査のリクエストがあれば、事務局へお願いしたい。できること、できないことはあるかと思うが。
- 盛谷委員 今取っているかわからないが、新入者に対する子どもと親に対して、入試や学校生活に関してのアンケートを取っているのであれば、この会議に関わる情報があれば、出していただけるとありがたい。
- 野中副委員長 都立高校の特別枠は部活での推薦。それなりの倍率を保つことに役立っている印象。役に立つと思うのは、このあたりの私立中高一貫校。例えば、和洋九段はプレゼンテーション入試をやっている。入試の形態というのは、学校から、小学校や中学校へのメッセージともいえる。九段中等は、こういう子どもを求めているというのを、どうしていくのか。そこに結び付けた特別枠になると良い。また、九段中等の一番大きな特徴は、区民枠が半分あること。そういう意味で、区内の小学校の子ども、保護者がどのような形を望んでいるのか、データがあれば欲しい。
- 大森委員長 九段中等教育学校に縁やゆかりのある分野があるのか、又は人物なり著名人などはいるのか。
- 野村委員 例えば、剣道であれば湯野正憲先生という有名な方がいた。東京都の高体連に湯野杯という大会があるくらい有名。その先生が、九段中等の教員をやっていた。湯野先生は、剣道をやっている人なら誰でも知っている。
- 大森委員長 そういう特色や突出していること、ゆかりのある人物等も事務局で調べていただきたい。

## 5 閉会